

2019年4月入職

いまいなつみ  
今井菜津美



## 忙しいときこそ、ポジティブな言葉を

### アイコンタクトで患者さまと心を通わせる

幼少期に祖父が入院していたため、よく病院にお見舞いに行っていました。「あの看護師さんに会いたいな」と思うような憧れの人があったことも記憶に残っています。当時から医療の道に進みたいと考えていたものの、当時は具体的な職種を決めるまでには至っていませんでした。透析の道に進もうと決めたのは、透析医療についての驚きがいかに大きかったからです。週3回、1回4時間の治療を行うことは、何も知らなかった私にとって衝撃的でした。日常的に透析を受けられる患者さまが心地よく過ごすことができるように、何か貢献できることはないだろうか。そう考えたことが、臨床工学技士になることを決めた理由です。

患者さまとコミュニケーションを取るなかで最も心がけているのが、患者さまの心の声を聞くことです。言葉では「大丈夫だよ」と仰る方でも、顔がすこし曇っていることは珍しくありません。特にコロナ禍の今はマスクの着用で表情が読み取りにくいので、アイコンタクトを意識しています。視線で患者さまと心を通わせるというイメージでしょうか。些細な変化に気を配りながら、声なき声に耳を澄ませています。

### 成功も失敗もノートに書き留める



クリニックには多くの患者さまが訪れるため、業務に追われてしまうこともあります。そんなときはついつい発言もネガティブになりがちですが、明るくて前向きな言葉に変換することで受け手の印象は変わるはず。例えば、業務が忙しかった日でも「大変でしたね」ではなく、「いい汗かけましたね」と言い換えることで、スタッフ同士お互いにその日を前向きに捉えることができると思うのです。自分自身に対してもなるべくポジティブな言葉を語りかけていて、うまくいかないときには、「これが終わっ

たら美味しいデザートが待っている」と言い聞かせることで笑顔をキープしています。たとえうまくいかないときでも、ほかのスタッフの方々が明るく励ましてくださり、たくさんの方々に支えられていると日々感じています。

患者さまにご提供できる快適さは、私たちの意識や努力次第でグンと増すものだと思います。穿刺に関しても、スタッフが自信を持って針を持てば、患者さまは安心して腕を伸ばすことができます。穿刺の精度を上げるために行っているのが、ノートに書き留めることです。「穿刺成功表」というタイトルをつけて、成功したときはもちろん、失敗したときにも「なぜそうなったか」を分析し顧みながら次回に活かすようにしています。もともとは先輩のアイデアですが、私も見習って行っています。もし気になる方がいれば、お気軽に声をかけてください。



患者さまのバに寄り添い、  
笑顔と安心を届けます。

今井 菜津美